

# 6

## おわりに

近年、発達障害を有する学生が増加していると言われています。ただ、発達障害の発生比率が昔に比べて変化しているというわけではなく、診断すべき対象として明確になってきたことや発達障害のことを世間の人が知ってきたことが要因になると思います。以前から発達障害を有する学生は存在し、大学生活を送ってきていたと思います（その中に退学や不適応の学生も多くいたのではないかと思います・・・）。最近になって、大学でも支援体制を作っていないといけなと言われてしています。その背景には「発達障害の学生の増加」というよりも「うまく適応できていない学生の増加」が大きな影響を与えているような気がします。実際に支援をしていく中で、幼少期から不適応の子どもが増えてきているというのは現場で働く人間は実感していることだと思います。

「発達障害」と聞くと何か特別なものであると思いがやすいですが、誰でも持っている特性や個性が強すぎて、「適応しにくい」ことが最大のリスク要因であり、適応する事さえできれば何も特別なものではなく「ちょっと個性が強い普通人」です。今回のガイドブックでタイトルを「何となくうまくいかない学生」にしたのは、発達障害という特別なものを対応とするものではなく、学生の個性をしっかりと尊重した関わりができるように、色々な先生に目を通してもらえるようにという意図がありました。

研究やその他の業務で忙しいとは思いますが、教育機関として、次世代の担い手の学生がうまく適応できるように支援していくことは非常に重要な責務だと思います。保健センター等と連携を取っていただいて、みんなで支援する体制を作っていければいいなと思います。ガイドブックは連携して支援体制を作るための第一歩です。話を聞きながら、対応を工夫しながら、「よりよい対策方法」を一緒に作り出していければと思っています。

いつでも連絡をいただければと思います。

特別支援教育コーディネーター  
高橋 正泰